

学校 教育 目標	学び合おう 輝き合おう 響き合おう ○自ら学び続け、課題解決に向かって粘り強くやり遂げ、自分の考えを深める子を育てます。(知) ○豊かな感性をもち、互いのよさや違いを認め、他者を思いやり、共に高め合う子を育てます。(徳) ○自らの生活を見つめ、心と体を鍛え、自他の生命と体を大切にすることを育てます。(体) ○地域の人やものと積極的にかかわり、自らができることを考え実践し共に生きる子を育てます。(公) ○様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)				
	学校 概要	創立 115 周年	学校長 保科 桂子	副校長 橋爪 純子	2 学期制
児童生徒数: 296 人		主な関係校: 老松中学校 横浜吉田中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	老松中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
		老松中学校 一本松小学校 戸部小学校
<コミュニケーション能力>	・必要な基礎学力を身につけながら学習への興味関心をもち、学び続ける姿勢を身につけた子ども ・基本的生活習慣を身につけ、他者への思いやりや礼儀をもった子ども ○小中交流日や合同授業研究会を通じた相互における授業参観や情報共有・交換によって児童生徒の学習や生活の実態について双方向の理解を深める。 ○6年の入学予定中学校見学交流会を実施し、スムーズな移行を図る。 ○中学校の職業体験実習や小学校への運動会ボランティア依頼を通して、児童生徒の積極的な交流を図る。	

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりのニーズに対応できる、「だれもが」「安心して」「豊かに」過ごせる学校づくりを進めます。 ・子どもたちが、自分の考えをもつことができる授業づくり、自分自身の成長を実感できる授業づくりを通して、考えを表現することを大切にし学力の向上を図ります。 ・多言語・多文化の児童の実態の中で、あいさつを大切に、温かい人間関係を築き、自他を大切にする心を育てます。 ・保護者、地域、関係機関に向かって学校を開き、「まち」や「ひと」との豊かなかかわりを大切にしていきます。 ・組織の見直しや会議等の効率化を進め、子どもと教職員がしっかり向き合い、教育活動の時間を有効につかっています。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 担当 学び部会	①朝の時間を有効に活用し、15分間のスキルタイムや読書タイムを実施していく。スキルタイムに関しては、児童が自分の力の伸びを実感できるような手立てを考える。 ②引き続き、高学年を中心に教科担任制を取り入れ、学年全体で学力向上に向けての指導を展開する。
豊かな心 担当 道徳部 特別活動部	①たてわり活動を充実させ、6年生を主体とした小集団を基本とした集会や行事を行うなかで、異学年間の交流を密にし、思いやりをもって異学年のことを考え、内容や方法を工夫していこうとする態度を養う。 ②全校が集う朝の時間に「ふれあいステージ」を設けたり、「多文化交流集会」を開いたりして、自己有用感や自己肯定感、互いを認め合おうとする態度を養っていく。
健やかな体 担当 体育部・保健安全部	①自分自身の健康のために運動を楽しむ習慣を身につけられるよう取り組みを計画する。 ②外部機関と連携し、児童の発達段階に応じて食育や防災教育を充実させ、健康や安全についての意識の向上を図る。
特別支援教育 担当 響き部会	①個別の教育支援計画の活用や職員間での情報共有を大切にし、一般級と個別支援学級との交流の活発化させながら、インクルーシブ教育の推進をしていく。 ②通級指導教室と連携したり、特別支援教室を活用したりして、個に応じた指導を適切に行うようにする。
国際理解教育 担当 響き部会	①多文化交流集会を通して、外国につながる子どもたちも日本の子どものみならずお互いのつながる国の文化や歴史にふれ、理解を深められるようにする。②YICA/外国語科、4年にぎわい座鑑賞や各学年の学習などを通し、日本の伝統にふれたり、他国の文化にふれ理解を深めたりできるようにする。
地域連携 担当 教務部	① ACS東っ子サポーターや学校・地域コーディネーターとの連携を密にし、学びを充実させていくとともに、子どもたちが自分たちの地域に愛着をもてるようにする。②幼保小交流や中学校との交流を通して、子どもたちが自己の成長に気付いたり、進級に向けての見通しをもったりできるようにする。
いじめへの対応 担当 響き部会	①いじめの早期発見・早期対応を心がけ、児童一人一人が、友達や教師との安心できる人間関係を築き、些細なことでも話することができる環境を作っていく。②YPアセスメント等を実施して児童の実態を把握し、温かく居心地のよい学級・学校づくりを進めていく。
人材育成・組織運営 (働き方改革) 担当 教務部・AZ研	①メンターチームにおいては、ミドルリーダーが講師となり学習指導や児童指導について研修を行う。メンバーで計画的に授業研究を行い、授業力の向上を目指す。②「ミライム」の活用を徹底し、ペーパーレスで確実な情報共有のシステムを構築していく。③定期的に職場環境を整えられるよう時間を確保し、職員の働きやすい環境づくりへの意識向上に向けた呼びかけを行う。